

【理念】

医療と福祉の連携をとり、介護員、相談員、ケアマネジャー、医師、看護師、栄養士、歯科衛生士それぞれの専門性、独自性、応用力を活かし、一貫したケアを行い入居者様が安全かつ安楽な生活を送ることが出来るように努める。

【目標】

- ① 異常の早期発見に努め、早期治療と看護による施設内での体調改善を図る
- ② 皮膚トラブルの予防に努める
- ③ 発生時は適切な処置を実施し早期治癒を目指す
- ④ 感染症の予防と拡大防止看取り介護の質の向上
- ⑤ 経費削減に努める

【実践報告】

- ① 異常の早期発見に努め、早期治療と看護による施設内での体調改善を目指す
 - ・ロング入居者様は週 1 回のバイタルサイン測定（以下 VS 測定）と入浴時の検温を実施、SS 利用者様は毎日 VS 測定している。退院後や食事、排泄、精神状態に変調があるときは適宜 VS 測定を行い、異常の早期発見、対応に取り組んだ
- ② 皮膚トラブルの予防と改善に努める
 - ・排便間隔、入浴回数等の関係から褥瘡の再発を繰り返している。また終末期において重度の褥瘡治癒を目指し、知識、技術の習得のため介護員への指導、教育を行っている。
- ③ 感染症の予防と拡大防止
 - ・今年度は入居者様の感染症（インフルエンザ、感染性胃腸炎等）は 1 例の発生もなかった。職員の徹底した感染予防行動と各種関係機関との情報共有、密な連携の結果と思われる。感染拡大時の対応を忘れず、常に危機管理意識を持って次年度も対応する。
- ④ 看取り介護の質の向上
 - ・28 年度も 8 名の入居者様がふるさとで最期を迎えられた。内 7 名はロング入居の看取り介護希望、1 名は SS 利用者様であった。SS 利用者様であっても、ご家族、関連機関等の連携、協力、理解があれば看取り介護が行えると感じたケースであった。親族がおられない入居者様は職員が寄り添い、最期を看取らせていただいた。介護員主体となって温かみのある看取り介護が行われるよう指導、助言をおこなってゆく。
- ⑤ 経費削減に努める
 - ・処置に使う物品の個人購入、医療や衛生材料の変更により経費削減が出来ている。今後も経費削減の意識を持ち実践してゆきたい。